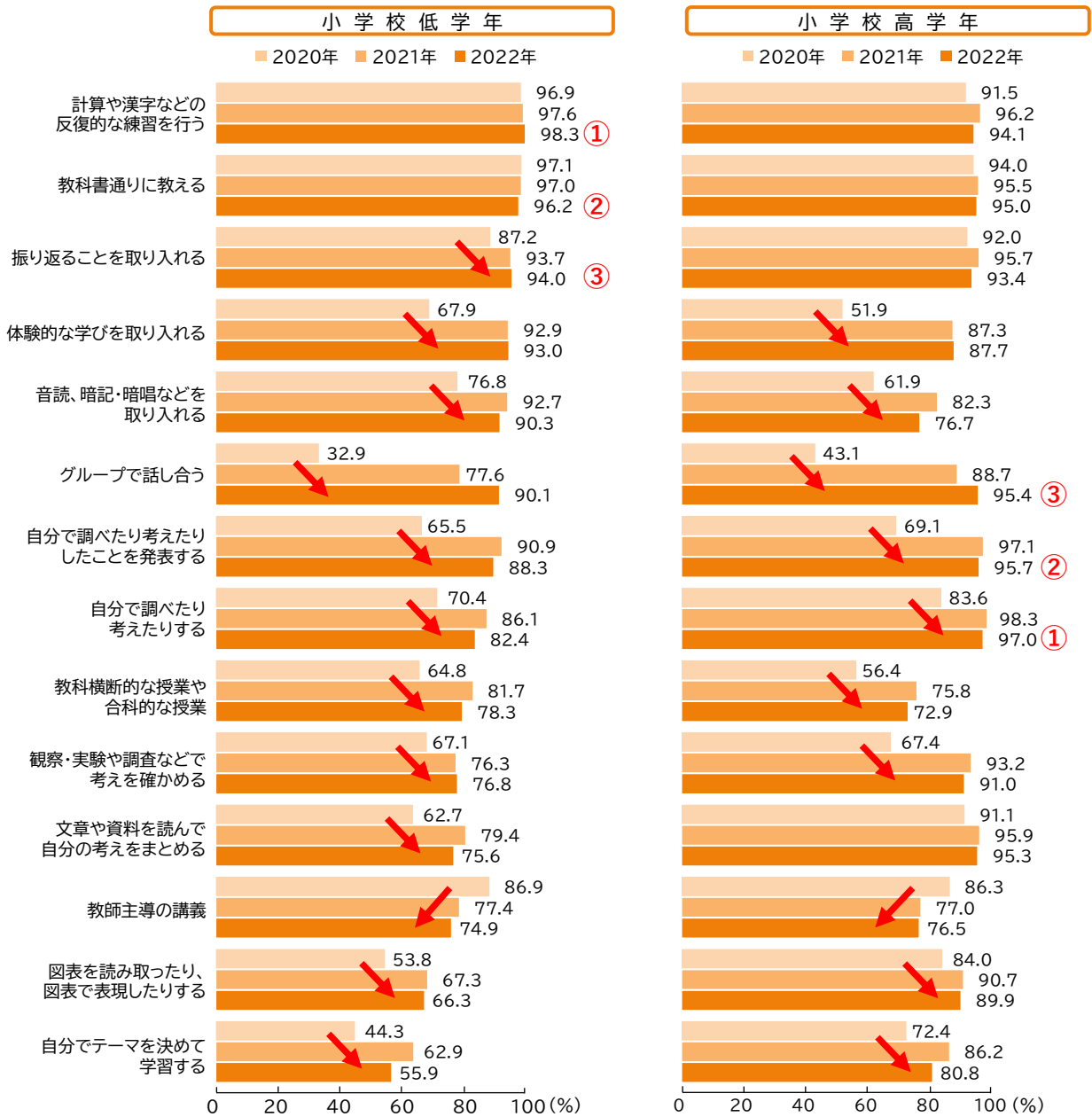


## 小学校では、ここ2年間で対話的・活動的な授業が増加

小学校では、2020年からの2年間で「教師主導の講義」が減少した（低学年：86.9%⇒74.9%、高学年：86.3%⇒76.5%）。それに対して、「グループで話し合う」「体験的な学びを取り入れる」「自分で調べたり考えたりしたことを発表する」（低学年、高学年）、「観察・実験や調査などで考えを確かめる」（高学年）は20ポイント以上増加して、9割弱～9割台となった。これらの対話的、活動的な授業の増加は、コロナ禍の制限緩和に伴うものだけでなく、新学習指導要領の趣旨の実現を目指す動きと考えられる。

Q あなたは教科の授業において、次のような授業をどれくらい行っていますか。

図4-1 教科の授業方法(経年比較)



※質問項目は、2021年に、わかりやすさを考慮し、比較できる範囲内で文言の変更を行っている（図4-1、p.21図4-1つづき）。  
 ※「よく行っている」+「ときどき行っている」の%。  
 ※①、②、③は、2022年の比率の上位1～3位を示している。

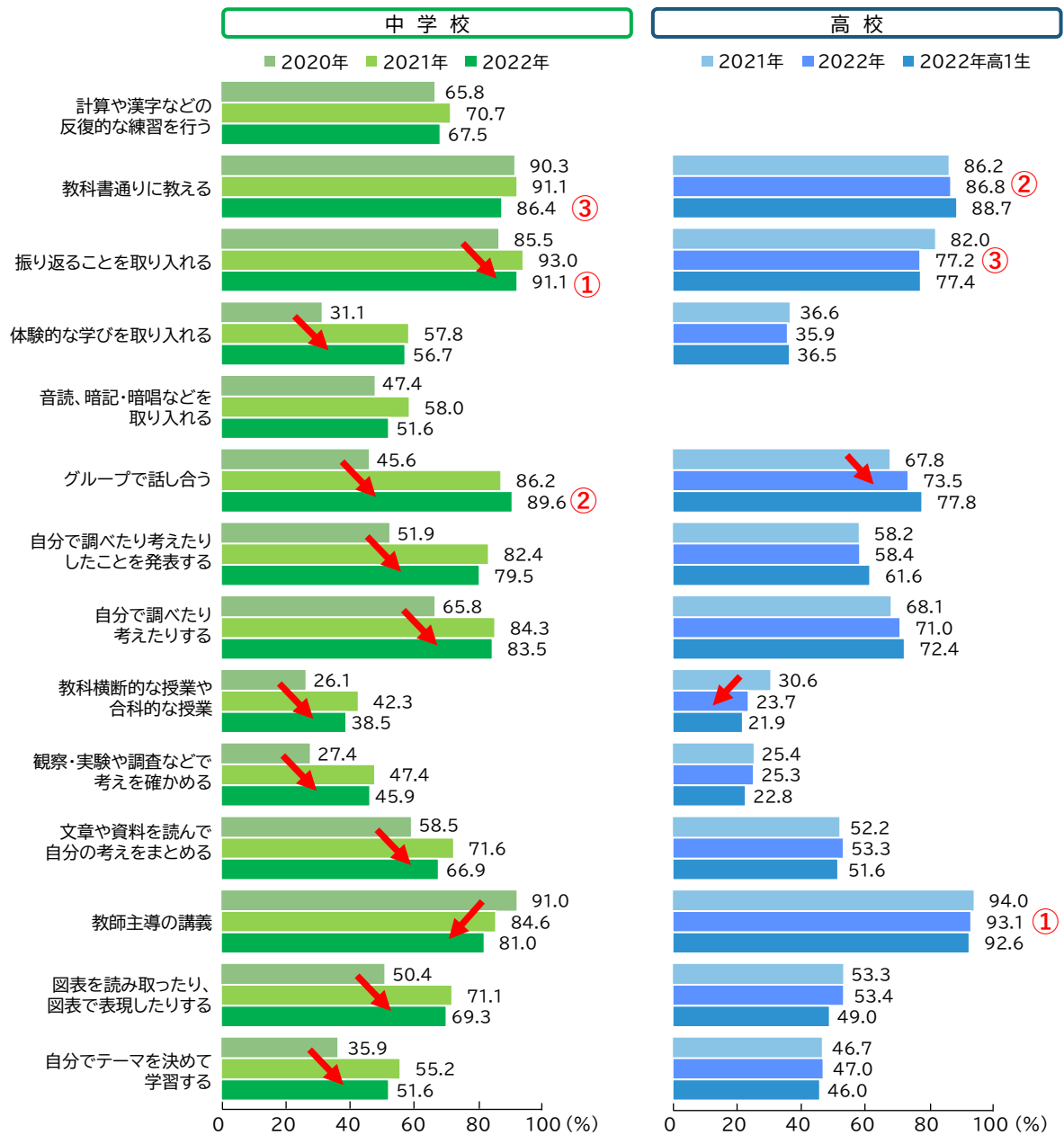
教科の授業方法（2 / 2）

高校は「グループでの話し合い」が増加するも全体の変化は小さい

中学校は、小学校と同様の傾向がみられる。2020年からの2年間で「教師主導の講義」が減少した（91.0%⇒81.0%）のに対して、「グループで話し合う」「自分で調べたり考えたりしたことを発表する」「体験的な学びを取り入れる」は20ポイント以上増加し、対話的、活動的な授業が進められている。一方、高校は、2021年からの1年間をみると、全体の変化は小さいが、「グループで話し合う」は5.7ポイント増となり、2022年度から新学習指導要領の実施となった高校1年生に絞ると10.0ポイント増となった。

Q あなたは教科の授業において、次のような授業をどれくらい行っていますか。

図4-1 つづき 教科の授業方法(経年比較)



※高校は2020年は調査していない。2022年高1生の数値は、高校1年生を担当している教員の回答（p.5参照）。  
 ※高校は13項目のうち12項目を示している。「計算や漢字などの反復的な練習を行う」「音読、暗記・暗唱などを取り入れる」の2項目は尋ねていない。  
 ※「よく行っている」+「ときどき行っている」の％。  
 ※①、②、③は、2022年の比率の上位1～3位を示している。

高校における探究活動のテーマ

「自然科学や数学的事象」に関するテーマが増加した

多く取り組まれている探究活動のテーマは、「社会や地域の課題解決」(61.1%)、次いで、「職業や自己の進路」(51.4%)で、この傾向は2021年から変わっていない。「自然科学や数学的事象」(29.1%)の比率は低めだが、2021年に比べて増加している(図4-2)。教科別にみると、理科の教員の授業では「自然科学や数学的事象」など、教科の特性と結びついたテーマが選ばれる比率が高いが、国語では「職業や自己の進路」のテーマも多く扱われている(表4-1)。学校タイプ別にみると、進学校ほど3割以上のテーマが多く、幅広いテーマに取り組まれているようだ(表4-2)。

Q あなたが指導している探究活動では、主にどのような課題に取り組んでいますか。

図4-2 探究活動のテーマ(経年比較) 高校

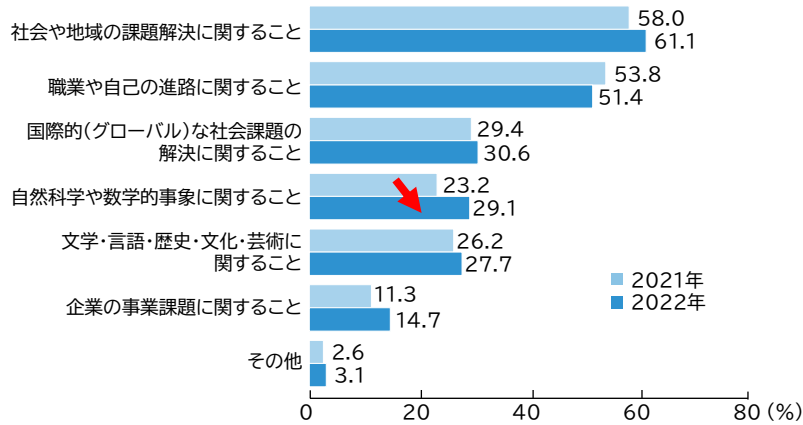


表4-1 探究活動のテーマ(2022年、教科別) 高校

	国語	地理歴史	公民	数学	理科	外国語
社会や地域の課題解決に関すること	66.7	71.7	<u>77.2</u>	54.0	48.7	64.7
職業や自己の進路に関すること	<u>60.4</u>	46.8	45.7	49.1	45.1	57.6
国際的(グローバル)な社会課題の解決に関すること	36.6	35.2	30.4	23.8	23.1	<u>39.9</u>
自然科学や数学的事象に関すること	14.3	15.5	14.1	38.0	<u>62.1</u>	16.9
文学・言語・歴史・文化・芸術に関すること	<u>43.2</u>	37.3	29.3	16.0	13.4	34.2
企業の事業課題に関すること	<u>17.6</u>	14.6	17.4	13.9	10.8	17.3
その他	2.6	3.0	3.3	<u>4.6</u>	1.8	3.2

表4-2 探究活動のテーマ(2022年、学科・学校タイプ別) 高校

	普通科						職業学科	総合学科
	全体	進路多様校	中堅校B	中堅校A	進学校B	進学校A		
社会や地域の課題解決に関すること	<u>62.6</u>	59.6	<u>66.1</u>	61.3	64.4	61.4	44.4	56.0
職業や自己の進路に関すること	51.3	<u>60.4</u>	59.4	53.0	51.5	36.4	52.8	<u>59.5</u>
国際的(グローバル)な社会課題の解決に関すること	<u>32.7</u>	15.1	24.8	39.6	37.8	<u>40.4</u>	5.6	19.0
自然科学や数学的事象に関すること	28.5	14.7	17.0	28.6	35.3	<u>37.9</u>	27.8	<u>30.2</u>
文学・言語・歴史・文化・芸術に関すること	28.1	17.6	21.2	30.0	<u>33.8</u>	32.0	11.1	<u>34.5</u>
企業の事業課題に関すること	15.1	10.6	13.3	16.6	16.4	<u>17.3</u>	<u>15.3</u>	12.9
その他	3.2	2.0	3.6	2.8	<u>3.7</u>	3.3	<u>4.2</u>	3.4

※「総合的な探究の時間」や教科における探究活動について尋ねている(図4-2、表4-1~2)。  
 ※探究活動を「指導している」と回答した教員のみ(図4-2、表4-1~2)。  
 ※複数回答(図4-2、表4-1~2)。  
 ※学科・学校タイプはp.4参照(表4-2)。  
 ※表4-1は教科の6群中、表4-2は学科の3群中および学校タイプの5群中、もっとも比率が高いものにそれぞれ下線を引いている。

生徒が取り組む探究活動の内容

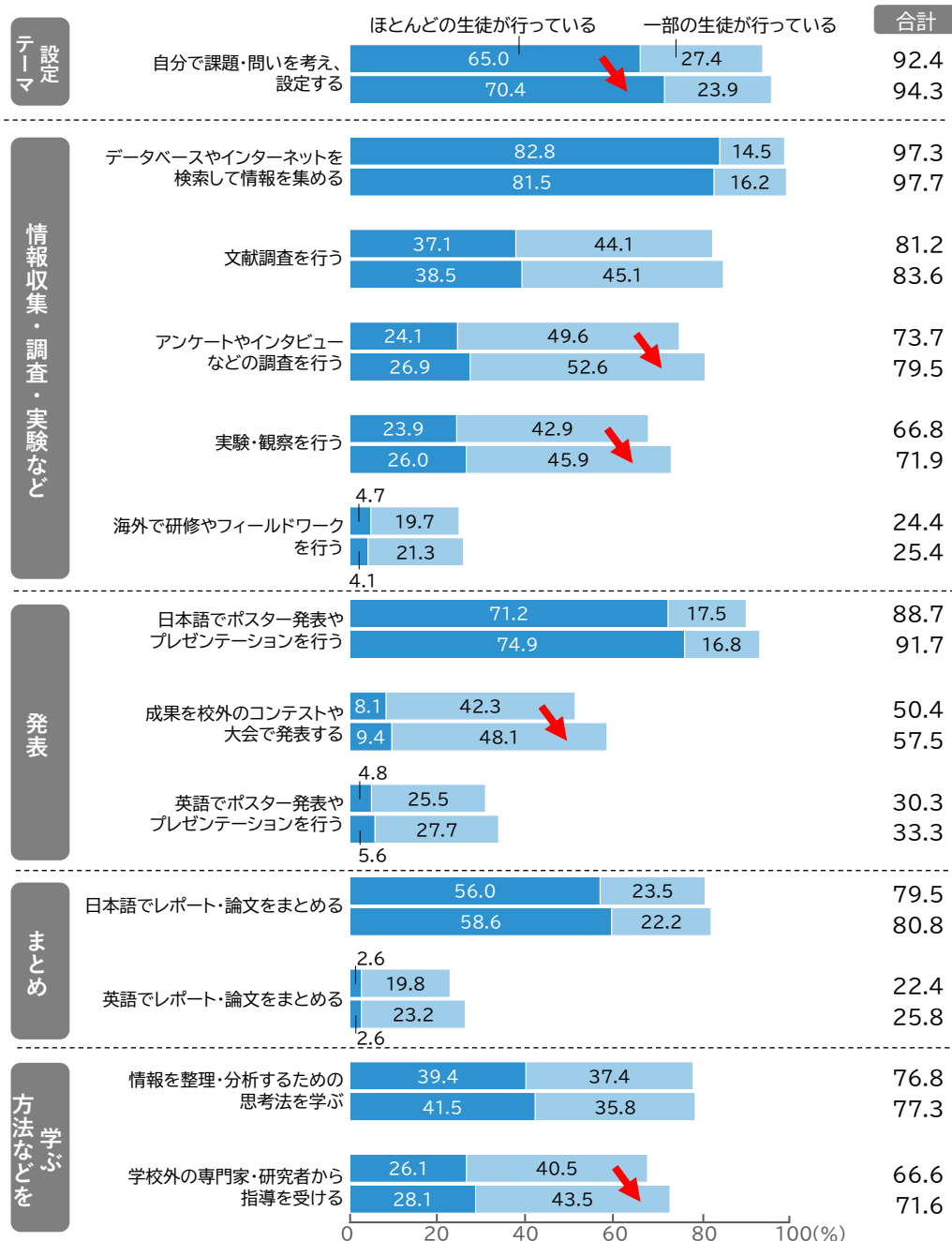
「調査」「実験・観察」などのさまざまな活動が活発化している

高校生の多くが行っている探究活動の内容は、インターネットなどを「検索して情報を集める」(97.7%)、「課題・問いを考え、設定する」(94.3%)、「日本語でポスター発表やプレゼンテーションを行う」(91.7%)などで、これらは「ほとんどの生徒が行っている」比率も7~8割と高い。また、「アンケートやインタビューなどの調査を行う」「実験・観察を行う」など、2021年よりも比率が高まっている項目が多くみられ、活動がより多様になっている様子がうかがえる。「コンテストや大会で発表する」「専門家・研究者から指導を受ける」など、学校外の場やリソースを活用する活動も増加している。

Q 探究活動のなかで、どれくらいの生徒が次のような活動を行っていますか。

図4-3 生徒が取り組む探究活動の内容（経年比較） 高校

上段:2021年  
下段:2022年



※「総合的な探究の時間」や教科における探究活動について尋ねている。  
※探究活動を「指導している」と回答した教員のみ。の回答。

探究活動における課題

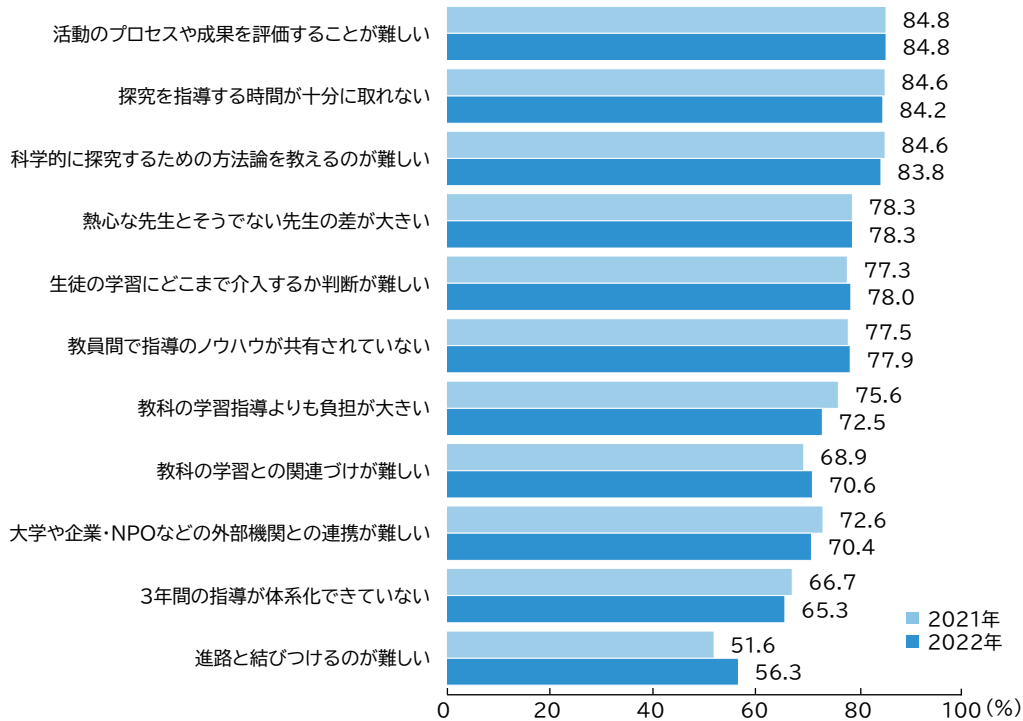
評価の難しさ、生徒の熱意の差などの課題は昨年から継続

教員は、探究活動において、さまざまな指導上の課題を感じている。学校・教員の課題のうち比率が高いのは、「活動のプロセスや成果を評価すること」や「方法論を教える」ことの難しさ、「指導する時間」の不足であり、8割以上の教員が課題と感じている（図4-4①）。また、生徒の課題のうち比率が高いのは、「熱心な生徒とそうでない生徒の差」「探究に必要な教科の知識・技能」の不足で、これらも8割以上の教員が課題と感じている（図4-4②）。いずれの課題も、2021年からの変化が小さく、なかなか改善が難しい課題であると考えられる。

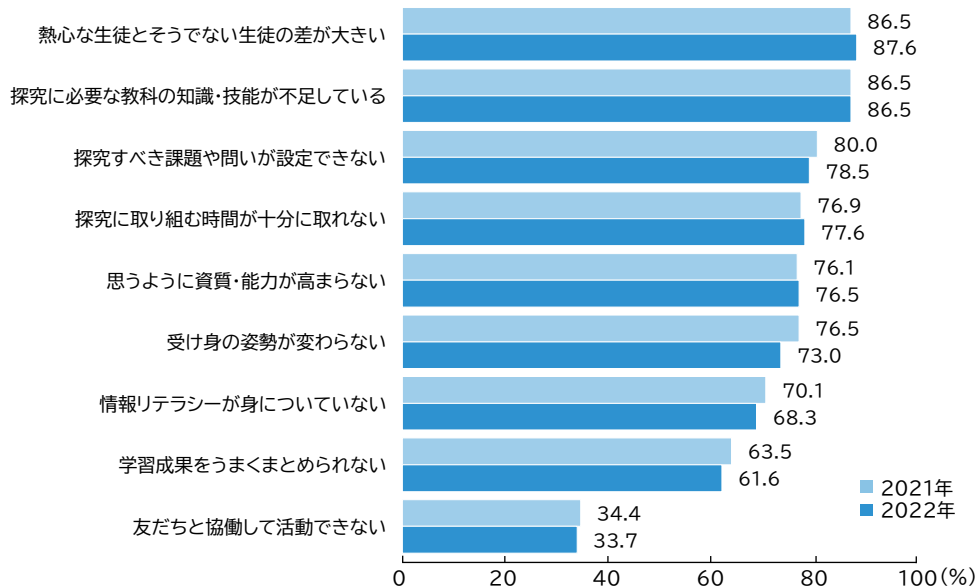
Q あなたは探究活動の指導を行ううえで、次のような課題を感じますか。

図4-4 探究活動における課題(経年比較) 高校

① 学校・教員の課題



② 生徒の課題



※「総合的な探究の時間」や教科における探究活動について尋ねている。  
※探究活動を「指導している」と回答した教員のみの回答。  
※「とてもそう」+「まあそう」の%。